

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800548		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホームうららびより金山(櫻館)		
所在地	岐阜県下呂市金山町金山988-1		
自己評価作成日	令和3年3月1日	評価結果市町村受理日	令和3年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2172800548-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和3年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来、ここぬくもりの里も大きく環境の整備も進み、当事業所にとっては、プラスの環境があります。近年、下呂市におきまして自然災害が多く発生致しました。そこで地域施設及び近隣住民の方々のご協力により、大変心強く感じました。避難施設でありますリバーサイドスポーツセンター、道の駅かれんには、災害に強いトイレも完成となり日々、安心安全に生活できる様、利便性の良い地域にある、うららびより金山である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルスの流行が起こる前は、日常的に戸外に出かけ、地域住民とふれあいながら、小学生の福祉体験受け入れ等も行ってた。コロナ禍の今、行事や交流は自粛しているが、感染対策をした上で、周辺での散歩は継続している。食事は、職員が彩りや食べやすい形態を工夫して調理し、利用者が食事を楽しみながら完食できるよう支援している。管理者は、助成金を利用して腰痛予防の介護アシストスーツを導入し、職員の介護負担軽減を図っている。また、外国人技能実習生の受け入れを行い、それぞれの経験や体力の差を職員のチームワークでカバーしながら、活性化につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(櫻館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、実践につなげていく為に、各館で目標を決め取り組んでいくように検討している。	理念は「ぬくもりの金山の地で、うららかに明るく笑い、楽しく語らん」としており、毎年、年度始めの会議で職員に周知し、実践につなげるための具体的な目標を各ユニットで立てている。職員は、利用者が住み慣れた地域の中で、明るく楽しく暮らせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染防止の為に、昨年度の様なボランティアの来訪、小学校の福祉学習での触れ合い、防災訓練等の行事に参加が出来なかった。周辺の散歩や外出は行えたが、感染防止の為に交流は深く出来なかった。	以前は、地域の祭礼行事や防災訓練に参加し、地域との交流に努めていた。また、地域ボランティアの来訪や小学生の福祉体験活動も、数年継続して行ってきたが、現在は、感染防止の為に、中止している。散歩で出会う住民との挨拶や、地域の人からの野菜の差入れは継続できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染防止の為に、地域での認知症でお困りのご家族様に、講演会を開催することや情報発信が出来なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染防止の為に、運営推進会議が開催出来なかった。活動報告資料を郵送し、家族、市の担当者の方々に事業所の取り組みの報告し、意見を頂いてサービス向上に活かすように努めた。	感染防止の為に、運営推進会議を中止している。入居者の状況やホームの活動内容、事故報告、職員異動等を書面にて報告し、構成メンバーから意見を聞いている。地域の役員交代時には、管理者が挨拶を兼ねて訪問し、運営推進会議の出席依頼をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、ケアマネが連絡をとり、事業所の実情やサービスの取り組みについて活動報告資料を用いて伝え協力関係を築くように努めた。	市担当者から、新型コロナ関連情報が逐次メールで配信され、必要な情報を運営に活かしている。市の補助金や助成金案内を受け、腰痛予防の介護パワーアシストスーツを導入することが出来る。介護人材の求人広告も市の協力を得ており、事業所も随時実情を伝えながら、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についての学習会を開催し防止に努めている。	身体拘束等の適正化委員会は、管理者、ケアマネジャー、リーダーで3カ月毎に開催している。また、職員会議でも拘束に関する具体的な事例を挙げ、事業所作成のテストで確認作業をしている。人感チャイム、センサーマット、鈴を使用し、転倒防止と安全対策で拘束ゼロのケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の学習会を開催し防止に努めている。		

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会で勉強会を設け、事業や制度について学ぶ機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、その内容と重要事項と共に説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染防止の為、運営推進会議の開催が出来ていないが活動報告を郵送し、意見、要望をお聞き出来る様に務めている。	利用者の日常の様子や、行事の際の写真を掲載した全体便りと一緒に、担当職員が書いた手書きメッセージと利用者の塗り絵を添えて、家族に送付している。また、運営推進会議書面報告書や外部評価結果も同封し、家族からの意見や感想を聞き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や面談時を通して職員の意見を聞き反映させる様に努めている。	管理者も介護の現場に入り、日常業務の中で職員から意見を聞いている。職員会議では、自由に意見や提案を表出でき、話し合いながら、サービス向上に活かしている。毎回、テーマを決めて学習会も行っている。	人手不足の中、職員の負担も大きいと思われる。各ユニットの自己評価に違いが生じている。利用者に満足いく支援が出来ないジレンマの現れでもあり、1つのユニットで看取りや重度者を支援している時には他方のユニットが応援するなど、職員間の協力体制の強化に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の力量を把握するように努めている。必要に応じて面談の機会を持っている。人材育成研修に参加している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年の4月～人材育成会議(本社主催)の出席し研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	うららびよりの全事業所の代表者及び管理者が毎週月曜日に営業会議を行いサービスの質の向上をめざしている。人材育成の会議が月2回、ケアマネ会議月1回と開催し事業所間での交流、勉強会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅やデイサービスへ出向き、事前面談をおこなっている。本人が安心できるように可能な限り、居宅のケアマネージャーさんに同席してもらっている。職員の情報共有でご本人の気持ち、希望、不安を理解し関係性を築くことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みにみえた段階で、ご家族の困っていること、施設に期待することを伺っている。サービスを導入する段階では再確認させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集シートを用いて事前面談を行っている。入所前に職員全員が情報を把握するように努め、必要とする支援について話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常業務を通して信頼される様、言動、行動を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「家族レター」等を通して個々の職員の思いを伝え関係づくりに役立てている。共に過ごす時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年はコロナの関係で関係の継続が困難になってきている。	現在もコロナ禍であることから、馴染みの人が来訪を控えている状況である。ZOOMを利用して、家族とオンライン面会を行ったり、親戚の人とデッキ越しに「元気ですか？」のプラカードを掲げての面会を行った事もある。馴染みの理美容師の訪問を継続し、散歩やドライブなども、感染予防対策をした上で実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年間を通した行事や日常的なレクリエーションの機会を通して、関わり合いを出来る様に支援している。共通の話題等を取り上げ、利用者同士が参加出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られる際には面談時に立会い、情報提供書をお渡ししている。退所後は面会に行き様子を伺って経過フォローできるように相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的、又はカンファレンスの機会を通じて希望、意向を職員同士、共有する様に努めている。	利用者一人ひとりの生活歴や習慣について、職員間で共有している。また、担当職員を中心に、日々の暮らしの中での会話、利用者の表情や仕草から、思いや意向を把握するよう心がけている。把握した内容は「気づきノート」に記録し、職員間で共有しながら介護計画作りに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前情報の把握に努め、利用者の暮らしを理解する様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、生活記録、気づきノートを利用し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議やカンファレンスで職員が情報交換、課題について意見や考えを出し合い、介護計画に生かしている。	職員会議やカンファレンスの際に、支援経過を検証している。利用者の思いと家族の意向を踏まえた上で、職員の意見や気づきも反映させた介護計画作りを行っている。安定した日常生活と転倒予防の支援を軸に、定期的な見直しを行い、状態変化があった場合は適時、計画を修正している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現在、情報共有する為に個別の記録(生活介護等)の記入方法について見直しをしている。介護計画に今以上に活かし質の高い介護サービスに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設側の一方的なサービスにならぬ様に、ご要望をお聞きし柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染防止の為、外部からのボランティアや喫茶利用、地域の催し参加など出来ませんでした。感染防止対策を行った外出、施設内で行事開催と楽しんで頂く様支援に努めた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医院や病院等と連携し利用者やご家族の希望に沿うように務めている。	かかりつけ医は本人と家族が選択している。協力医は事業所から近く、看護師同行で受診している。かかりつけ医への受診は家族に依頼しているが、家族の都合や緊急時には、職員が代行する体制を整えている。歯科往診も可能であり、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や異常に気付いた際には速やかに看護師に報告して指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ケアマネ、看護師が中心となり関係者との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	つい最近、対象の方があった、家族とケアマネ、看護師が協議し方針を共有している。	重度化・終末期の指針があり、契約時に説明し、書面にて同意書を交わしている。感染症対策を万全にした上で、家族と方針を共有しながら看取り支援を行っている。職員は、医療行為を伴わない自然な看取り介護について、定期的に学習会を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練は定期的に行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・月1回の防災訓練の実施、年2回の消防署立ち合いの訓練を実施している。・職員会の開催時に防災についての学習会を実施している。	今年度の防災訓練は、近隣住民の参加なしで実施している。加えて毎月の自主訓練は可能な限り利用者も参加し、避難誘導の訓練を行っている。オール電化であることから、災害時の停電対策についてや、昨年の土砂災害で、職員が出動できなくなった事等、取り組むべき課題についての対策を検討している。	事業所は、水害危険区域にある。行政と連携しながら地域住民と共に課題点を話し合い、マニュアルの見直しと共に、職員が迅速に行動できる体制づくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な声掛け等をみかけた時にはその都度、注意し合い改善する様にしている。言葉遣いや声掛けの仕方を職員会議で話し合い利用者様を尊重した支援を心掛けている。	職員は、利用者から学ぶことも多く、利用者の言葉を謙虚に受け止め、明るく穏やかな態度で対応することを心掛けている。常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねない言葉かけや対応に努めている。学習会では「接遇」について学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話や気持ちの汲み取りをして思いに添う様支援を心掛けている。急いで答えを引き出すのではなく時間をかけ取り組もうとしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時には職員側の都合を優先する事もあり得る。さらなる取り組みが必要と考える。職員側のスケジュールに合わせている事が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	数人の方については支援が出来ている。理美容院の利用は希望に合わせた支援が出来ていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳は数名の利用者にやって頂いているが準備については困難な状況である。食事の準備、調理等は一切利用者とともに行っていない。	食事は、職員が調理している。調理が苦手な職員には、他の職員がフォローしたり、利用者のアドバイスも受けながら取り組んでいる。旬の食材を利用し、家庭的な味付けで、彩りや配膳にも工夫しながら提供している。現在は、利用者が高齢化している事もあり、出来る事が限られ、準備や調理には関わっていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表によりバランスのとれた食事作りに努めている。必要に応じて刻み、ミキサー食も用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをして頂いている。自分で出来ない方の支援も行っている。		

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間歩行困難な方にパット内での排泄を促してしまっている。日中は排泄状況表をもとに排泄の支援を行っている。	排泄パターンに沿って声かけと誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。ポータブルトイレを利用していた人も、職員のこまめな介助でトイレでの排泄ができるようになった事例もある。歩行困難な利用者は、安全に配慮し、夜間帯のみ、適切な排泄用品を使用して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の状況を確認し、必要に応じて看護師、ケアマネに相談、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日の設定はしていないが毎日全員は入れないので2日に一度となっている。	一日置きの入浴となっている。重度の利用者も、福祉用具を使って、ゆっくりと湯船に入れるよう支援し、入浴を楽しんでいる。体調によってはシャワー浴や清拭、ドライシャンプーで対応している。介助者の相性にも配慮し、安全・安楽な入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本が希望されたり、体調や下肢の浮腫等、声掛けしベットで休んで頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が管理している薬指示により現場の職員が支援している。体調が悪い時には状態を看護師に報告し薬の調整をして頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる方には声掛けし、洗濯物干し、畳み、食器拭きや片付け等をして頂いている。可能な限り、1人1人に合った支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、本人の希望通り、面会、外出が困難な状況だった。	今までは、近くの道の駅、御堂、温泉施設等に出掛けたり、家族の協力を得ながら、花見や紅葉狩りなどの年間行事を実施していた。コロナ禍の今、これまでの様な外出は中止している。現在は、できる限り外気に触れられるよう声かけし、事業所周辺を散歩したり、庭の花を眺めるなど、気分転換を図れるよう支援している。	

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が手元にないと心配される方もみえる、本人と家族と相談し持って頂いている。本人の希望により必要な物を買って頂ける様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を利用して自由にご家族様等とお話頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花やその時に応じた作品を作って頂き、展示して季節感を取り入れている。	共用スペースは天井が高く、広いテツキもあり開放感がある。他方のユニットは吹き抜けのある2階建てで、日当たりも良く、窓から外の景色が一望できる。ユニット共有の玄関通路には季節の花が飾られ、室内の随所も花で彩られている。ホーム内は、衛生的で整理整頓され、利用者が好きな場所で穏やかに過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の思いを配慮しながら食事の席やレクの席を考え配置している。おしゃべりや、独りで過ごす居場所を工夫しつづけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族によっては入所時に家庭内での配置と同じ様に家具等をセットされていかれる事があった。	居室には、ベッドや使い慣れた整理ダンス、椅子等を持ち込み、今までと同じような家庭での暮らしを再現している。各居室に電気メーターが設置され、エアコンやテレビなど、電気消費管理をしている利用者もある。整理ダンスのみの人、写真や趣味の作品を飾っている人、それぞれの個性を尊重した居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は安全で自立した生活が送れる様に環境づくりに努めている。人感チャイム、センサーマット、鈴を使用し転倒防止や安全対策をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172800548		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホームうららびより金山(向日葵館)		
所在地	岐阜県下呂市金山町金山988-1		
自己評価作成日	令和3年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和3年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(向日葵館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月1回、職員会議で読み上げ確認し合い実践につなげていく様に努めている。人材育成の勉強会から理念についての話し合いや意見交流とすすめており、朝の申し送り時にも理念を読み上げる取り組みをし共有を深めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩中に挨拶を気軽に行い、お話ししたりできている。又、時に野菜などいただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染防止の為、地域での認知症でお困りのご家族様に、講演会を開催することや情報発信が出来なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染防止の為、運営推進会議が開催出来なかった。活動報告資料を郵送し、家族、市の担当者の方々に事業所の取り組みの報告し、意見を頂いてサービス向上に活かすように努めた。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、ケアマネが連絡をとり、事業所の実情やサービスの取り組みについて活動報告資料を用いて伝え協力関係を築くように努めた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普段より確認しあったり、勉強会のテーマとして取り上げ、理解を深め実践に活かしている様にしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会で具体的な事例について勉強会、意見交換を行い、防止に努めている。不適切なケアについて言葉遣い等、気になる時は職員間で話し合っている。		

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員より職員会を通して勉強会を行う予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容について読み合わせ、生活面での不安、お困りごとをお聞きできるように十分に時間を設けている。物品購入等、細かなことについても十分に説明を行っている。場合により文書で同意を得て購入している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染防止の為、運営推進会議の開催が出来ていないが活動報告を郵送し、意見、要望をお聞き出来る様に務めている。来訪時、面会時にご要望や意見を伺うように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や面談時を通して職員の意見を反映させる様に努めている。職員間でも意見が言い合える関係でリーダーがまとめてくれている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員と定期的に面談を行っている。前期、後期と自己評価表に各々、目標等を記入し、面談時に課題や思いを聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握するように努めている。必要に応じて面談の機会を持っている。本部関連の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	うららびよりの全事業所の代表者及び管理者が毎週月曜日に営業会議を行いサービスの質の向上をめざしている。人材育成の会議が月2回、ケアマネ会議月1回と開催し事業所間での交流、勉強会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅やデイサービスへ出向き、事前面談をおこなっている。本人が安心できるように可能な限り、居宅のケアマネージャーさんに同席してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みにみえた段階で、ご家族の困っていること、施設に期待することを伺っている。サービスを導入する段階では再確認させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集シートを用いて事前面談を行っている。入所前に職員全員が情報を把握するように努め、必要とする支援について話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	気づきを通して利用者さんから要望や希望を言いやすく又、聞いてもらえる様な関係づくりが出来る様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族レター等を通して、職員の思いを伝えながら家族の方の思いも理解し関係づくりに役立てている。来訪時、面会時にご要望や意見を伺うように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問時には、談笑できる様に居室又はリビング等で対応するようにしている。コロナ感染防止対策の為、オンライン面会やビニールカーテン、窓越しの面会となっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションを活用しながら利用者同士の関係が深まる様に支援している。不穏時には職員が間に入り、共に暮らし、良好な関係づくりをサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られる際には面談時に立会い、情報提供書をお渡ししている。退所後は面会に行き様子を伺って経過フォローできるように相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に、又、カンファレンスを通して希望、意向を職員同志共有する様に努めている。普段の何気ない会話より希望をお聞きし実践につなげるように努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前情報の把握に努め、ご家族来訪時に話をお聞きし、暮らしを理解する様に努めている。アセスメントシートを活用し、利用者の暮らしを尊重、理解し入院看護要約でこれまでの経緯や把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録を中心に介護記録、気づきノートを利用し現状の把握に努めている。関わりの中で過ごし方など気づいた事は記録、情報収集し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議やカンファレンスで職員が情報交換、課題について意見を出し合い活かしている。介護職、看護職連携しケアのあり方について意見、アイデアを出し合っている。必要に応じて申し送り等で伝えるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、介護記録を用いて情報共有しケアに活かしている。申し送り時に日中、夜間の様子を報告し情報共有、モニタリングでも実践状況を把握し、介護計画に反映できるよう努めている。記録等から情報共有し実践や見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご要望をお聞きしながら又、ニーズの変化に即対応できる様に努めている。施設側の一方的なサービスにならぬ様に、柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出、行事を通して楽しんで頂く様、支援している。コロナ感染防止の為、地域資源活用は少ない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様等の希望でかかりつけ医院への継続した受診を勧めている。病状によりご家族様に報告、相談の上、専門医の受診をしていただいている。家族や職員で受診を支援している。必要に応じ、往診にきていただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや報告を行い利用者の体調変化を看護職に報告し協働に努めている。24時間を通して看護職へ利用者の状態、気づいたことがあれば報連相を行い、適切に対応できるように努め、協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は口頭や文書にて利用者様の状態や経過を報告している。病院へ伺い病院関係者と情報交換を行っている。協力医との退院カンファレンスを通し情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様から日頃のコミュニケーションの中で終末期のあり方について汲み取り、家族とも話し合いを密に持ち、支援に取り組んでいる。利用者様の状態の変化やケアの変更があれば、その都度ご家族へ連絡をしている。主治医、ご家族、職員間で話し合いをして方針を共有するように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生に備え、夜間連絡緊急体制を表としてかけている。緊急時を想定し、職員連絡網で連携を確認し実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、定期的に避難訓練を行っている。防災担当者の組織編成づくり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カンファレンスや会議で声掛けの仕方、対応の仕方を話し合い情報共有しながら対応している。利用者様1人ひとりを尊重し、優しい声掛け、想いに寄り添った思いやりのある対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や表情から気持ちを汲み取りながら思いに寄り添い自己決定できる様に努めている。利用者様から話される機会も大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんの聞いてほしい、という思いを大切にしながら選択しやすい声掛けを行い、希望に添える様にしている。その日の体調、気分、ご希望にあわせて、その人らしく過ごして頂けるように要望やペースを大切に支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己にて服選びができる様に好みの服を来て頂ける様に支援し、介助が必要な方には支援している。身だしなみに対してのこだわりを把握し、ご本人の思いに添った支援が出来る様に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理全般は職員が主に行っている。食材によって一緒に下処理を行ったり、郷土食(ほうば寿司)やぼたもち作りなどしている。季節ごとの行事で家庭でのごちそう、旬な食材について歓談し合い楽しみを持っていただいている。やって頂ける利用者さんには、食後の片付け台拭きなど役割をもち行っていたいでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、おやつ時には記録に記入し、状態に応じて散歩後や夜間に水分補給する様に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを実施し1人1人の口腔状態に合わせた口腔ケアを行っている。ご自身で出来ない方には職員が介助しケアを行っている。歯科受診、訪問歯科の利用もしている。		

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況表を活用しパターンの把握をして表情や仕草から声掛けを行い、自立に向け支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の体操を取り入れ飲水も働きかけ、排泄リズムを把握し取り組んでいる。ストレスの影響等、便秘の原因や及ぼす影響の理解に努め、散歩や食事等でも予防を図り、個々に応じた支援を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせながらお湯の量や温度を調節し、時間も希望に合わせている。お体の状態によって福祉用具を活用し安全に入らせていただいている。ゆず湯など楽しんで頂いたりコミュニケーションを図りながら希望に添った支援に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望、体調に考慮して入眠支援を行っている。環境も個々に応じて支援している。夜間、1人の時間をゆったりと過ごしていただいている、安眠出来る様に希望に添いながら傾聴し安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が管理している薬指示により現場の職員が支援している。看護師と連携し薬情報ファイルで情報共有し理解と把握している。症状変化を看護師に報告、医師より服薬調整等の指示を頂いて行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活習慣や楽しみを把握し、個々に合った支援が出来るように努めている。季節毎の作品作りで完成を一緒に喜び達成感を感じて頂いたり、食器拭き、片付け、洗濯物干し、たたみと家庭でやってみえた役割を張り合いにして頂いたり、楽しみや喜びが増えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩にお誘いして支援している。又、季節を感じて頂ける様に外出を支援している。その都度、ご本人の希望の把握に努めた。コロナ感染防止の為、外出計画が出来ない事があった。		

岐阜県 グループホームうららびより金山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かり金はご本人、家族に了承頂いて、事務所で管理させていただいている。ご本人の希望により必要な物を買って頂ける様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望や必要時に電話をさせていただいている。又、プライバシーに配慮し電話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を一緒に生けたり、季節感のある作品づくりを行い、展示し工夫して季節を感じられる空間作りに努めている。個々に応じてプライバシーに配慮しながら生活しやすい環境づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係や思いを配慮し、レクリエーションの席や食事の席を考え工夫している。状況によってご希望を聞いて椅子等の配置を工夫している。個々の生活パターンやこだわり等を配慮して思いに添って過ごせる様に居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室空間はご本人の希望を伺い、家具の配置や動線を一緒に考え安全に配慮している。写真や作品を飾ったり、馴染みの物を生かし、安心して過ごして頂けるよう努めている。ご本人にとって大切なもの、使い慣れたもので居心地よさがでる様にご本人の希望に添って配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	人感チャイム、鈴を使用し安全に過ごせるよう対策している。現在出来ることを継続できるように支援している。		